

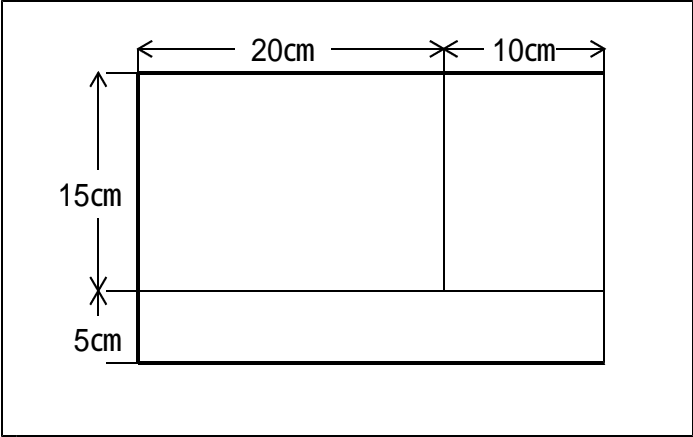
この図形について、次の式で求められる面積は ~ のどれですか。

< 式 > $20 \times 30 - 15 \times (20 + 10)$

この式をよむ場合には、図から右のような部分を取り出してみると分かりやすくなります。 20×30 は、この長方形全体の面積を表す式です。

$15 \times (20 + 10)$ は、と の長方形を合わせた面積を表す式です。

したがって、 $20 \times 30 - 15 \times (20 + 10)$ は、 の長方形の面積を表す式となります。



この図形については、さらにいろいろな問題が出題できます。

【問題】	< 式 >	< 答え >
この図形について、右の式で求められる面積は、 ~ のどの図形ですか。中には複数の図形が合わさった部分の面積もあります。	(1) 15×10	
	(2) 5×30	
	(3) $15 \times 10 + 20 \times 20$	と
	(4) $15 \times (20 + 10)$	と
	(5) $20 \times 30 - 5 \times 30$	と
	(6) $20 \times 50 - 20 \times 20$	と と

もっと複雑な式を与え、難しくすることもできます。

例えば、 $20 \times 50 - 15 \times 30 - 5 \times 30$ などとすると、かなり難しくなります。

児童の習熟度に応じた問題を設定して、式をよむ力を培いましょう。

4 問題づくりを積極的に取り入れましょう

「栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン - 小学校・算数 - vol. 3」でも、問題づくりについては示しましたが、式をよむことの指導においては、問題づくりは大変有効です。特に低学年の児童は、お話が大好きです。絵を見てお話をつくる経験を生かして、式からお話をつくるような経験をたくさんさせたいものです。中・高学年においては、数と計算の単元の中に位置付けて、できるだけ多く問題づくりをさせるよう心がけましょう。